VDT職場における職務再設計について

○三澤哲夫 池上 徹 松田文子 吉田有希（千葉工業大学）

Job re-design for aged VDT workers

Tetsuo Misawa, Thor Ikegami, Fumiko Matsuda, Yuki Yoshida (Chiba Institute of Technology)

1. はじめに

ここ数年、VDT作業に従事する中高年齢労働者の増加が目立つようになってきている。これら労働者は、視機能を中心とする心身諸機能が若年者に比べて低下している場合が多い。

今回、事務作業のすべてをVDT作業に転換する職場（平均年齢 45 歳）を対象として負担調査を行ったので、その結果を報告する。

2. 方法

対象者は、35 歳未満、45 歳未満、45 歳以上の 3 群にそれぞれ 10 名、計 30 名の女性職員である。負担調査の評価項目は、業務量、自覚症状、近点距離およびフリッカー値である。VDT作業の内

容は、画面上にイメージ画像で表示された情報に、マウスあるいはキーボード操作によりコード番号を付与する、単純繰り返し作業である。

3. 結果

各評価項目とも 1 日の VDT 作業によると考えられる変化は示されたが、いずれも有意なものではなかった。しかし、年齢階級別に見ると、中高年齢者は若年者に比べて負担度とくに視機能面の負担度が高い傾向が示された。

4. まとめ

中高年齢者に VDT 作業を行わせる際には、年齢による機能低下を考慮した作業内容、作業時間、休憩のあり方等を再検討する必要性が示唆された。

[MEMO]